

(様式) 平成28年度 那珂川町立小川中学校 学校評価報告書

評価項目	評価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
各学校での目標（重点は○数字）・具体策				
I 学校教育目標や学校経営の方針の設定状況				
1 愛級、愛校、愛郷の精神を基調として知・特・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。	B	・今年もファイトタイム、コミュニケーションタイム、ハートフルタイムなど、特色ある教育活動の展開を図ることができた。	・生徒数が来年も減少する中で活力ある学校とするため、生徒がチーム力を発揮できるよう、教員も一層チームとしての教育活動に努める。	・生徒・教職員一丸となってよりよい「小川中」を目指していった欲しい。
② 教職員としての使命感をもち、情熱と創意工夫にあふれる教育活動を展開する中で5かけの教育を実践する。	A			
3 情操豊かな生徒の育成のため、潤いと安らぎのある教育環境づくりに努める。	B	・「小川中」はよい学校という意識のある生徒が数多く見られる。		
II 保護者や地域との連携に努める				
① <u>HPや学校だより等を通して、保護者や地域に向け、きめ細かに情報提供し開かれた学校づくりに努める。</u>	A	・HP、学校だより、学年だよりを定期的に発行でき情報提供に努めることができた。	・PTAや地域の協力を得ながら、地域に根ざした学校として学校教育を推進できるよう努めたい。	・地域に根ざした学校としてあり続けることができるように支援していきたい。
2 地域の施設や人材の積極的活用を図りながら、小学校と連携した教育の推進に努める。	B	・小学校と連携して、学校保健委員会を開催したり、出前授業を行ったりすることができた。		
III 確かな学力の育成に努める				
① 学びに向かう集団づくりに努め、主体的に学ぶ意欲の育成や基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る（ファイトタイムの活用）。	B	・基礎的・基本的な知識・技能を定着させるため、各教科とも工夫して取り組んできた。	・生きて働く「知識・技能」を習得し、それをどう使うか。また、どう生活に生かすかという視点をもちながら学習指導をすすめたい。	・時代に必要とされる学力を向上させるために、一層の努力をして欲しい。
2 学習過程に主体的・協働的に学ぶ時間を位置付け、課題解決の手段としてICTを活用し、分かる授業の実践に努める。	B	・各教科ともICTを活用して分かる授業の実践に努めた。		
3 ノーメ・ディアチャレンジや家庭学習へつながる課題の提示などを通して、家庭学習の習慣化に努める。	B	・家庭学習の習慣化に向けた取組は、学年の実態に応じて行っているが課題の見られる生徒もまだいる。	・家庭学習の習慣も学力向上には欠かせないので、いろいろな方法でさらに働きかけたい。	
IV 豊かな心の醸成に努める				
① ハートフルタイムやあいさつ、読書活動、各教科、体験活動との関連を図った指導の充実に努める。	A	・ハートフルタイムは、道徳性の基盤を養うために有意義な時間となっている。		・学力はもちろんだが、豊かな心の育成も必要だと思う。この点についても、不断の努力をお願いしたい。
2 道徳の時間の確保に努め、指導法の工夫・改善を行い「道徳性」を育てる、教え育てる道徳教育の推進に努める。	B	・生徒のあいさつについては、地域の方からよくできているという言葉も今年もしばしばいただいた。	・ハートフルタイム等を基盤にし、教科化を見据えた指導	
3 教育相談等での生徒理解や生徒を認める関わりを通して、生	B			

徒との信頼関係確立と、生徒の自己有用感育成に努める。		・道徳の時間の指導法については教科化を見据えていく必要がある。	法の研修を行い、考える道徳の時間となるように努める。	
V 健やかな体の育成に努める		・情報モラル研修会は、講師の都合で2学年のみの実施となった。	・全生徒に関わることで、全校生対象に実施できるようにする。併せて、学活や技術の授業などでの指導を充実させる	・メディアとの関わりは避け ては通れない。そこで、トラブルに巻き込まれないような指導をして欲しい。
① 健康の大切さを認識させるとともに、生活習慣の乱れや心の問題等による不登校の解消に努める。	B	・生徒の意識改善のため学校保健委員会で「メディア使用による心身への影響」について取り上げた。		
2 運動習慣を身に付けさせ、個々の実態に応じた体力の向上に努める。	B			
3 生徒の危機予測や回避能力の育成に努め、自他の生命を尊重できるようにする。	B			